

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 古里 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	103人	社会	103人	数学	103人
	理科	104人	英語	103人		

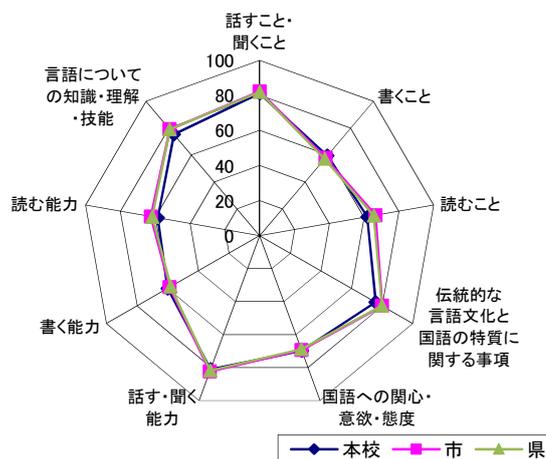
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	81.1	82.3	81.8
	書くこと	59.5	58.0	57.2
	読むこと	61.9	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.8	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	69.7	69.4	68.8
	話す・聞く能力	81.1	82.3	81.8
	書く能力	60.1	58.8	58.1
	読む能力	58.5	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	75.5	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

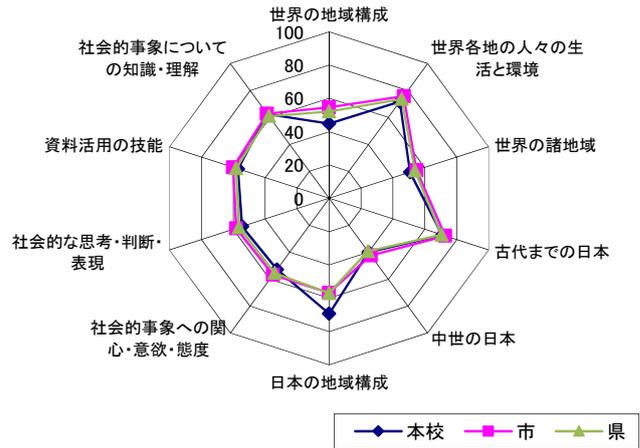
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話の内容理解や話し方の工夫に関する問題では正答率が高い。</p> <p>●市、県平均よりも下回っている。</p> <p>●聞き取りの問題では、話の内容を短くまとめて書く問題の正答率が低い。他の問題から話の内容は押さえられていることが分かるが、それを言語化することに苦手意識があると考えられる。</p>	<p>・聞き取りの問題は学校でも取り組んでいるが、選択問題での出題が多くなっている。そのため、今後は自分の言葉で答えたり、内容を要約したりするような問題にも取り組んでいく。</p>
書くこと	<p>○市、県平均を上回っている。</p> <p>○作文問題では2つのポスターを見比べて、比較する問題が出されたが、それぞれの長所や短所に目を向け、それを表すことができている。</p> <p>●その一方で、自身の考えや意見を書くことが苦手な傾向がある。</p>	<p>・日々の授業の中で、自身の考えを明確にしたり、発表したりする場を積極的に設けていく必要がある。さらに、他者の意見にも触れる機会も設け、視野を広げていくことができるように取り組む。</p>
読むこと	<p>○説明文、物語文ともに選択問題では比較的正答率が高い。</p> <p>●市、県平均を下回っている。</p> <p>●内容の読み取りでは、登場人物の心情理解についての正答率が低い。</p>	<p>・登場人物の心情について、本文中のヒントとなる表現や記述にどのようなものがあるかを日々の授業のなかで今以上に上げることで、文章中にあるヒントに気づくことができるようにしていく。また、教科書内の文章等でも心情把握の問題を設ける。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の読みについては正答率が高く、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題も正答率が高い。</p> <p>●市、県の平均を下回っている。</p> <p>●文法に関する問題での正答率が低く、特に文節や単語に分けることを苦手としている。</p>	<p>・文法に関しては、1年生からの復習も含めて、もう一度基礎から取り組んでいく必要がある。知識だけでなく、ワーク等の問題演習を通して、理解が促進されるように取り組む。</p>

宇都宮市立古里中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	45.0	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	71.8	75.9	73.7
	世界の諸地域	50.8	54.8	53.9
	古代までの日本	70.9	72.7	70.5
	中世の日本	40.0	42.4	39.3
	日本の地域構成	69.2	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	52.8	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	54.5	58.1	56.4
	資料活用 of 技能	57.1	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	62.7	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

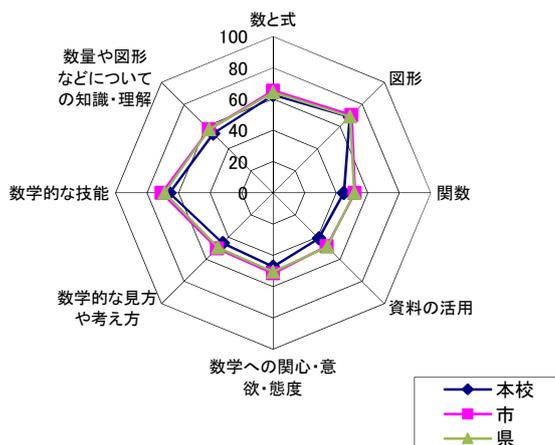
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は県・市より低い。 ○世界の地域区分に関しては、おおむね理解している ●基本的なメルカトル地図の見方は理解できているが、特殊な地図の見方の理解が不十分であることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学初期の基本事項について毎授業の小テストで復習する。 ・日ごろの授業の中で地図を見る機会を増やすとともに、毎時間の小テストなどで、定期的に地図の基礎事項を振り返る。
世界各地の人々の生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> ●県の平均と同程度であるが、市よりは低い。 ●温帯・乾燥帯などの気候区分の理解不足が見られる。 ●気温図を読み取る力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気温図の基本的な読み取り方はわかっているが、それを活用する力が弱い。今回の問題のように人々の生活と関連させるなどの発展問題を授業の中でも解かせる。
世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> ●県・市平均より低い。 ●アジア、北米、アフリカ州の問題に出された、産業と関連させた問題や帯グラフの読み取りなどの理解不足が見られる。 ○ヨーロッパ、オーストラリアの理解度は、県平均と同程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の植民地問題などの歴史と融合させた基本的な問題は理解できている。 ・教科書に出てくる重要な用語を覚えることはできていても、その用語について説明することができていない。地域の特徴や、産業とのつながりなど多面的・多角的な観点から、考える力を育てるために日々の授業の中で考えを書く時間を設定する。
古代までの日本	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均よりもやや低い。 ○県の平均よりは高い。 ○古墳から平安までの基礎知識などは身に付いている。 ●奈良時代の律令制度の資料問題が正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代の律令制度では、見たことのない資料問題との融合問題の正答率が低かった。複数資料からの読み取り問題を多く解かせる必要があるので単元のまとめなどで行っていく。 ・歴史の流れを理解することが得意な生徒が多いが、制度史などを苦手とする生徒が多いので、授業内で分かりやすく説明する。
中世の日本	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均よりも低い。 ●一問一答形式ならできる問題が、資料と関連させて思考する問題になると正答率が低くなる。 ○鎌倉、室町幕府における組織の違いなどについては、おおむね理解できている様子である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や、資料集に載っている歴史資料と関連させて思考する問題になると正答率が低くなるので、授業の中で資料と関連させて思考する場面を増やす。
日本の地域構成	<ul style="list-style-type: none"> ○県・市の平均を大きく上回っている。 ○特に日本の領域や、時差関係の問題についても県より平均得点率が高い。 ●個々の資料を読み解くことはできるが、複数の資料や地図を使って思考する問題で正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の地域構成については、日々の確認テストなどにおいても理解している様子が見られる。今後も、基本を中心に学ばせていく。 ・複数の資料やこれまで学習した知識を活用して思考を深め、考えたことを生徒自身の言葉で表現させる場面を授業の中に多く設ける。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	62.6	65.4	64.4
	図形	68.8	70.5	69.0
	関数	44.9	51.9	51.5
	資料の活用	41.1	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	47.2	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	45.2	50.2	49.4
	数学的な技能	65.7	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	53.7	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

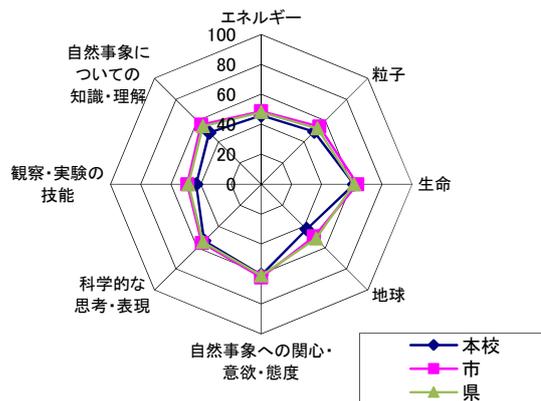
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、県、市よりも低い。 ○正の数・負の数や文字式、1次方程式の基本的な計算については、おおむね良好である。 ●比例式を解く問題では、10ポイント県の正答率を下回っている。また、1次方程式の文章題や示された文字式を記述で説明する問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正の数・負の数や文字式の計算は、計算問題の基盤になるものであるため、授業の中で計算のポイントを確認し、ワークやプリントで練習を繰り返し行う。 ・文章題や記述で説明する問題は苦手とする生徒が多いが、解き方のポイントを押さえて、同じような問題に取り組みませ、定着を図る。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、県、市よりも若干低い。 ○空間図形の位置関係や回転体の問題、平面図形の図形の移動や作図の問題については、県の正答率を上回っている。 ●おうぎ形の面積を求める問題については7.2ポイント、円錐と円柱の体積の関係については11.4ポイント県の正答率を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図形や空間図形の基本的な内容については、理解ができていますので、様々なパターンの問題に取り組みませ、応用に活用できるようにする。 ・図形の面積や体積を求める問題については、公式をよく確認し、計算できるように多くの問題に取り組みませる。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、県、市よりも低い。 ○グラフを読み取る問題については、正答率が高かった。 ●比例のグラフをかく問題については11.4ポイント県の正答率を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式、表、グラフをそれぞれ単独のものではなくつなげて考えられるように授業の中で、確認しながら問題に取り組みませる。 ・式の求め方やグラフのかき方など基本的なことを一つ一つ丁寧に確認し、復習問題を取り入れながら、今後の関数の問題に対応できるようにする。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、県、市よりも低い。 ○資料の範囲の意味については、理解されている。 ●相対度数については13.6ポイント、累積度数については15.9ポイント県の正答率を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用語の意味や求め方をよく整理し、問題に取り組みませ、小テスト等で確認する。 ・様々な資料の特徴を説明する問題について正答率が低いので、普段から言葉で説明する場面を増やしていく。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	45.9	48.8	48.1
	粒子	49.6	54.4	52.6
	生命	61.5	63.7	61.5
	地球	42.5	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	60.7	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	53.5	55.7	54.8
	観察・実験の技能	43.1	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	48.7	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

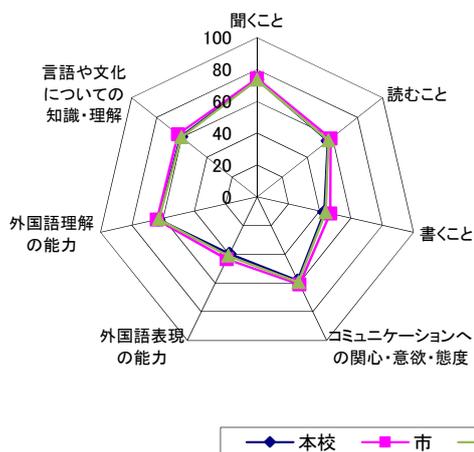
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○つり合っている2つの力の関係を考える問題では、県の正答率を10.0ポイント上回っている。</p> <p>●全体の正答率が、市・県の両方の正答率を下回っている。おもりにほたらく重力とばねののびの関係をグラフに表す問題が、県の正答率を12.5ポイント下回っている。</p>	<p>・光の道すじを作図したり、重力とばねののびの関係をグラフに表したりなど、作図する力が弱い。作図する際に押さえるべきポイントを授業で重点的に伝え、作図練習の機会を複数回設ける。</p>
粒子	<p>○二酸化炭素の水に少しとける性質を答える問題で、県の正答率を3.0ポイント上回っている。</p> <p>●全体の正答率が、市・県の両方の正答率を下回っている。</p>	<p>・密度を求めたり、グラフを読みとるなど、数量を取り扱う力が弱い。原子・分子などの目に見えない粒子をモデルで表して可視化するなどして丁寧に指導する他、問題演習の時間も十分に設定する。</p>
生命	<p>全体の正答率は、県の正答率と同じである。</p> <p>○顕微鏡の使い方に関する問題や、根のつくりを推測する問題で、県の正答率を5ポイント以上上回っている。</p> <p>●全体の正答率が、市の正答率を2.2ポイント下回っている。裸子植物の花粉に関する問題や軟体動物に関する問題など、県の正答率を5ポイント以上下回っている問題もある。</p>	<p>・裸子植物や軟体動物は教科書で取り扱われているページ数が少ないが、「マツを実際に観察し、雄花や雌花はどの部分にあたるのか理解させる」「外とう膜が体のどの部分にあたるのか、複数の軟体動物を例に挙げて比較させる」など、時間を割いて指導する。</p>
地球	<p>○火山岩のでき方を説明する問題で、県の正答率を3.4ポイント上回っている。</p> <p>●全体の正答率が、市・県の両方の正答率を下回っている。ほとんどの問題で、県の正答率を5.0ポイント以上下回っている。特に、石基や堆積岩など、知識を問う問題で県の正答率を15.0ポイント以上下回っている。</p>	<p>・基本的な語句が定着していないため、実物に触れる機会を増やして、どのようなものを表す語句なのかイメージできるようにする。</p> <p>・岩石や化石が堆積した当時から現在までの年月が長いので、その長さや当時の環境を想像しにくい。地球の歴史、生物の歴史、社会科で学ぶ歴史などを関連付けて指導していく。</p>

宇都宮市立古里中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	73.8	74.4	73.5
	読むこと	56.5	58.7	56.9
	書くこと	43.0	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	58.3	61.0	59.4
	外国語表現の能力	39.6	43.5	41.1
	外国語理解の能力	63.1	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	60.6	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●県平均よりは0.3ポイント高いものの、市平均には0.7ポイント及ばない。 ○普段から聞き取り問題に対して苦手意識がそれほど強くない様子で、正答率も比較的高い。特に英文の要点を聞き取る問題では、県の正答率より8ポイント以上上回った。 ●対話を聞いて、次に入る表現を推測して答える問題では正答率が低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取り問題を解く際は、聞き取った内容をメモすること、何を問われているのか問題文の始めを意識して聞くことを引き続き指導する。 ・対話を聞くときは、話し手の意図や気持ちを考えながら聞くような問いかけを繰り返す。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●県平均よりは0.4ポイント、市平均には2.2ポイント及ばない。 ○メールを読んでその概要を把握する問題では県の正答率を6ポイント以上上回っており、英文の内容を大まかに把握することはできている。 ●英文や対話文を読み、その中の情報を正しく細かく読み取る問題では正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長文読解のポイントをしっかりと身に付けさせるために、文中のキーワードにマークしたり、問われていることが書かれている部分を探してみたりする練習を今後も継続する。 ・普段の教科書内容理解の際には、英語でのQ&Aをより多く取り入れて、英語での答え方のパターンを身に付けさせる。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●県平均よりは0.9ポイント、市平均には3.8ポイント及ばない。 ○単語の並べかえによる英作文では県の正答率を上回っている。 ●対話の流れから次に続く内容を推測して英文を書く問題では、県の正答率を7～8ポイント下回っている。 ●英作文の問題では、他の問題に比べて無回答率が高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の英語でのQ&Aでは答えることができているが、書くことに抵抗がある生徒が多いので、話したことを英文で書く練習を増やしていく。 ・選択肢がある問題よりも、初めから自分で英文を作る問題に抵抗感が見られる。基本的な英文を、正しい英単語や英文法で書く練習を授業の中で継続して行っていく。

宇都宮市立古里中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合は96.1%である。また、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」と回答した生徒の割合は75.9%で市の平均より10ポイント以上高かった。毎日、家庭学習ノートを出させチェックしている取組の成果と考えられる。一方「学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答した生徒は45.2%で市の平均より16ポイント以上低く、「難しい問題にであうと、よりやる気が出る」と答えた生徒も市の平均より12.5ポイント低い。今後は、学習内容を自分で工夫して組み立て、粘り強く取り組もうとする態度を育てていく必要がある。

○「学校のきまりを守っている」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」と回答した生徒の割合は95%以上である。「授業を集中して受けている」と答えた生徒は94.2%である。学校生活を前向きな気持ちで送ることができている生徒が多い。しかし、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と答えた生徒は53.9%で市の平均より9.5ポイント低い。「自分は勉強がよくできる方だと思う」と答えた生徒の割合も市の平均より7.4ポイント低い。毎日の学校生活をはじめ、学校行事等で一人一人の生徒の努力を見守り認める場面を増やし自己有用感を育てていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と答えた生徒の割合は80.8%で市の平均より20.5ポイントも高い。また、98.1%の生徒が「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と答えているのに対し、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と答えた生徒は39.4%で市の平均より7.6ポイント低い。これらのことから、話し合いの中で相手の考えを聞くことはできるが、自分の考えを表現することに苦手意識を持っている生徒がとて多いと言える。少人数による学び合いを通して自分の考えを伝えることへの抵抗感をなくしていくなど、授業において自分の考えを表現する活動の工夫を図っていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合いを通じた確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各教科・領域等において、話し合い活動、発表などの機会を意図的に増やす。 自分の考えを書いてまとめ、発表する活動を重視する。 「学び合い」により、個々の考えを練り上げる活動を重視する。 	「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と答えた生徒の割合が市の平均より20.5ポイント高い。「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と答えた生徒は39.4%で市の平均から7.6ポイント低い。
家庭学習を中心とした自主学習の内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表の作成・提出により家庭学習の計画と振り返りを実施する。 家庭学習ノートの提出により家庭学習の習慣化を図る。 保護者会等での情報提供や協力の依頼を通して家庭との連携を図る。 	「家で学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合は96.1%である。また、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」と回答した生徒の割合は75.9%で市の平均より10ポイント以上高い。
ICTの活用を通し、わかる授業、興味がわく授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> 相互授業参観においてICTの効果的活用の工夫を視点にした授業の展開をする。 クロームブック、パソコン室、メディアルームを積極的に活用する。 	「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」と答えた生徒の割合は66.4%で市の平均より3.9ポイント低い。